

■定格

型 番	定格電圧	周波数	消費電力(強)		重量
AM40384E	AC100V	50/60Hz共用	50Hz	60Hz	5.0kg
			20W	25W	

※リモコン送信機で消灯・回転停止した場合、約1Wの電力を消費します。
※長時間使用しない場合、壁スイッチをOFFにしてください。

■仕様(回転方向:下向き)

型 番	電圧(V)	周波数	回転数(rpm)		風速(m/min)	風量(m³/min)	消費電力(W)
AM40384E	AC100V	50	強	129	54	78	20
			中	81	31	44	9
			弱	57	18	25	5
			微	45	18	23	3
		60	強	151	64	88	25
			中	88	33	60	10
			弱	61	21	24	5
			微	47	13	21	4

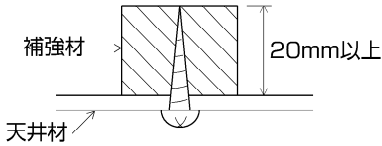
※電圧特性、羽根の重量および室温の変化により回転数は±15%の範囲で、誤差が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。(回転数は室温25度にて測定)
※風速、風量は、器具最下面での測定値です。
※微風回転は取付環境により停止する場合があります。(環境に応じてスピード切替を行ってください。)

■施工前の確認

1 器具重量に耐えられるよう取付部の強度を確保する

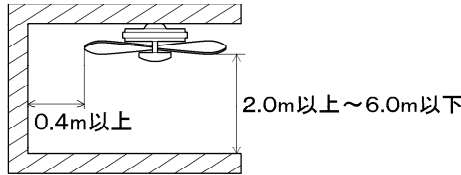
取付ネジを補強材に20mm以上ねじ込めるようにする。

⚠ 警告 必ず補強材を確認してください。
器具の落下によるけがの原因になります。



2 設置場所を確認する

- 羽根が回転するとき、人・家具・壁その他インテリアに当たらないように取付ける。
- 雨や水しぶきのかかる場所、直射日光の当たる場所には取付けない。
- ホコリの多い場所、酸・アルカリ・油を使う場所には取付けない。



3 必ず同梱の部品を使用する

別売の延長パイプは指定のものをご使用ください。羽根は同じ重量のものをセットしていますが、羽根のバランスなどにより本体が多少揺れることがあります。

4 傾斜天井に取付ける場合

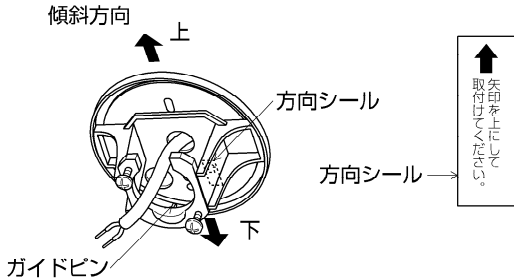
対応する傾斜角は別売の延長パイプの有無により異なります。傾斜角に応じて部品を使用してください。

※取付金具は右図のように、方向シールの指示に従って傾斜方向に対して、取付金具のガイドピンが下になるように取付ける。

延長パイプを使用しない場合	傾斜角12°まで
30cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AE40389E・AE40390E)	傾斜角25°まで
60cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AEE590128・AEE590240)	傾斜角39°まで

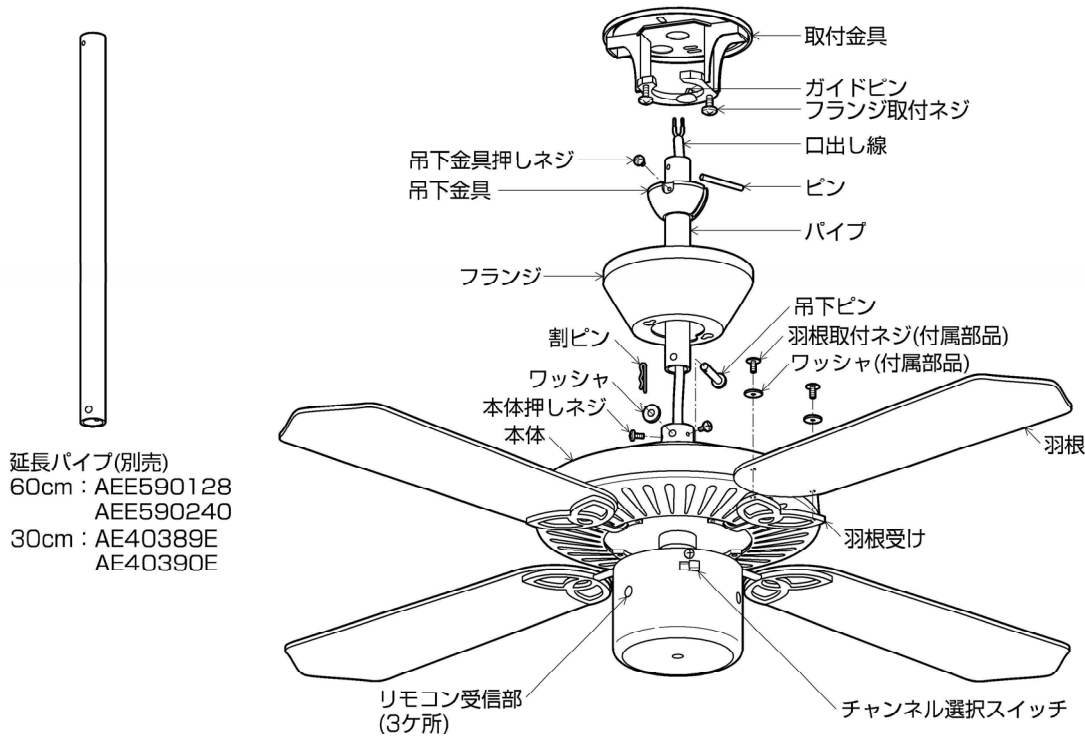
5 取付面がクロス貼りの場合

接着剤が十分に乾燥してから器具を取付ける。
変色やサビの原因になります。



■施工手順 ⚠ 注意 取付けの際は必ず電源を切ってください。感電の原因になります。

※この図は一部抽象化した共通部品図です。
※部品の有無・損傷を確認し、不備の際は取付けないでください。
※延長パイプを使用した際、羽根が回転することにより、横揺れが起きる場合がありますが故障ではありません。



延長パイプ(別売)
60cm：AEE590128
AEE590240
30cm：AE40389E
AE40390E

〈付属部品〉



取付ネジ・・・・・・・・４本

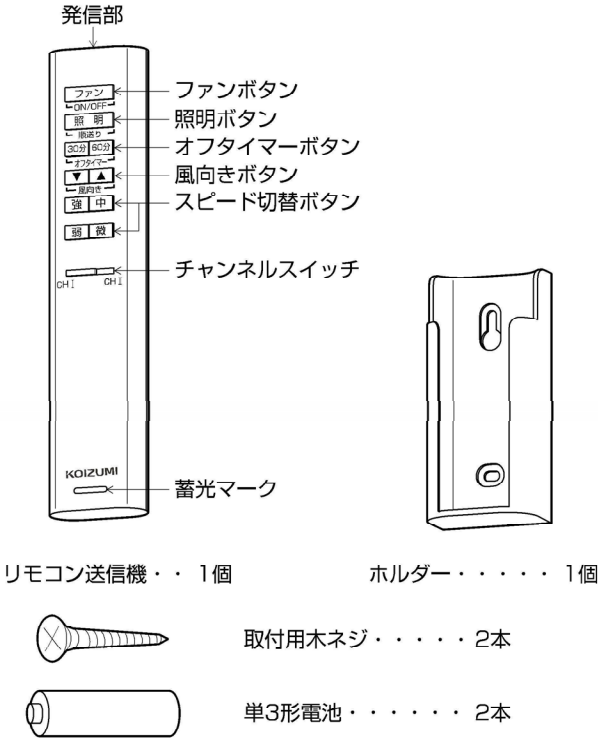


羽根取付ネジ・・・・・・・・ 8本(予備1本)



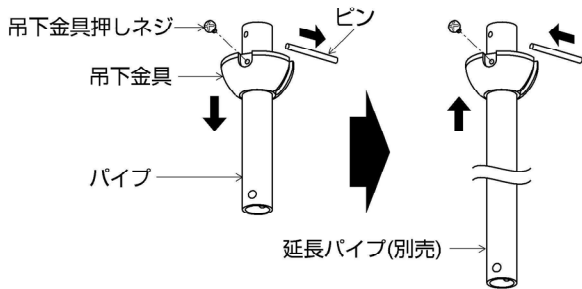
ワッシャ・・・・・・・・ 8本(予備1本)

〈リモコン送信機一式〉



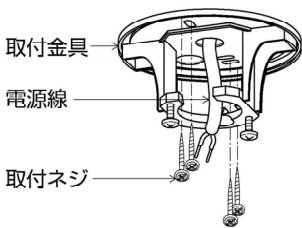
1 延長パイプ(別売)を使用する場合

■**施工手順 4**を参考に、パイプを本体より取外す。
吊下金具押しネジをゆるめ、吊下金具とピンをパイプから取外す。
ピンと吊下金具を延長パイプ(別売)に通し、吊下金具押しネジで取付ける。



2 取付金具を取付ける

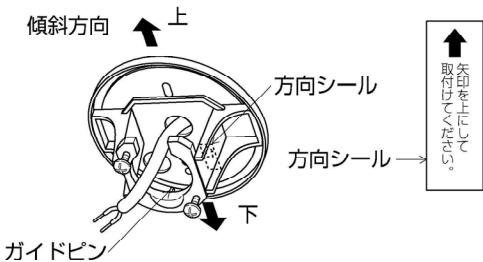
取付金具に電源線を通し、取付ネジ4本で天井に取付ける。



<傾斜天井に取付ける場合>

右図のように、方向シールの指示に従って傾斜方向に対して、取付金具のガイドピンが下になるように取付ける。

延長パイプを使用しない場合	傾斜角12°まで
30cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AE40389E・AE40390E)	傾斜角25°まで
60cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AEE590128・AEE590240)	傾斜角39°まで

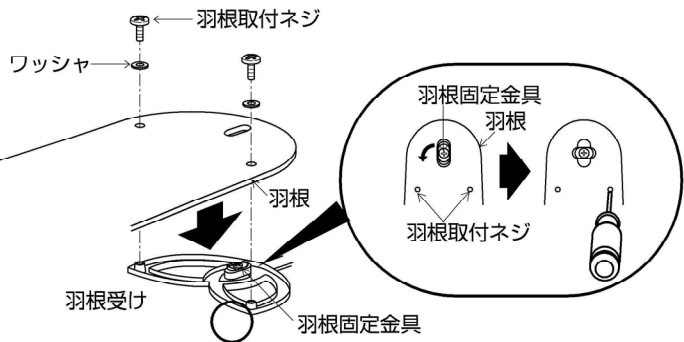


3 羽根を取付ける

(床面で作業する方が楽にできます。)
羽根を羽根受けに合わせ、羽根固定金具を左に回し、付属の羽根取付ネジ2本とワッシャ2枚で確実に取付ける。

※取付けは確実に行ってください。締め付けが不十分な場合は、ガタツキまたは、事故の原因になります。

※固定に緩みがある場合は、羽根取付ネジを再度締め付け直してください。

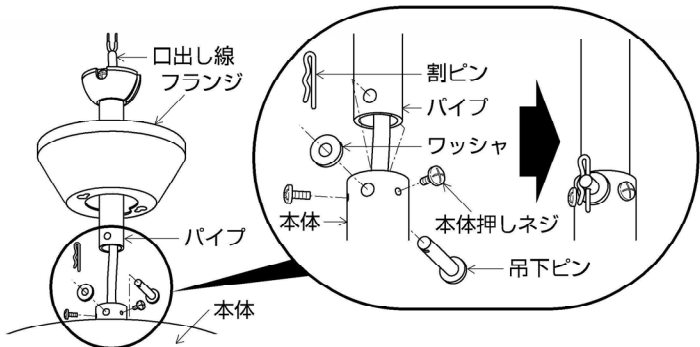


4 吊下金具を取付ける

q 割ピン、ワッシャ、吊下ピンをパイプより取外す。
w パイプにフランジと本体の口出し線を通す。
e パイプを本体に合わせ、吊下ピン、ワッシャ、割ピンで取付ける。
r 本体押しネジ2本を締め付けてパイプを本体に固定する。

※取付けは確実に行ってください。
締め付けが不十分な場合はガタツキの原因になります。

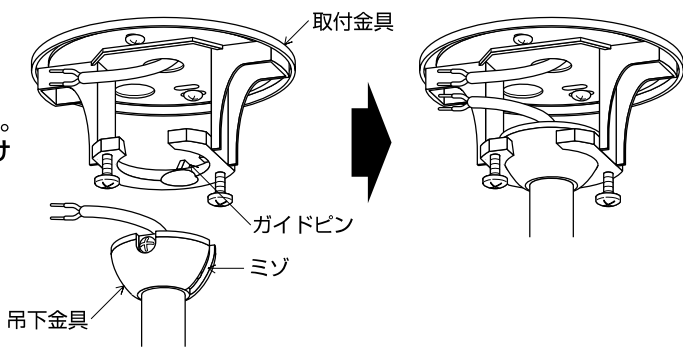
※本体押しネジは均等に締め付けてください。
ガタツキの原因になります。



5 本体を取付ける

吊下金具のミゾを取付金具のガイドピンに合わせてはめ込む。

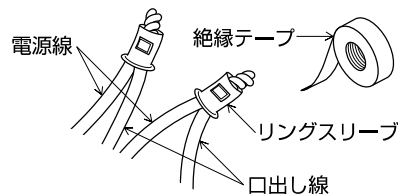
※ミゾとガイドピンを確実ににはめ合わせてください。
はめ合わせが不確実な場合ガタツキ・落下によるけがの原因になります。



6 電源線を接続する

電源線と口出し線を確実に接続し、絶縁テープなどで絶縁処理を行なう。

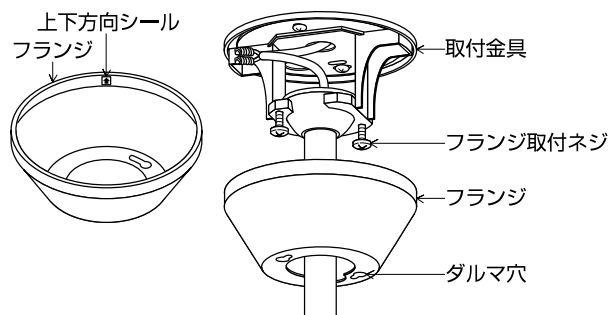
⚠ **警告** 電源の接続を確実に行ってください。
接続が不完全な場合は火災の原因になります。



7 フランジを取付ける

フランジの切欠き側を取付金具のガイドピンに合わせてフランジをフランジ取付ネジで取付ける。

※傾斜天井に取付けるときには、フランジ内側の上下方向シールが上側になるように取付けてください。



8 壁スイッチをONにし、リモコンを操作する

※壁スイッチでファンの操作はできません。

9 取付けおよび羽根の回転の確認を行なう

q 取付金具の取付にガタツキがないか? → ■**施工手順 2**の取付ネジを十分締め付けているか

w 羽根のブレがないか? → ■**施工手順 3**の羽根取付ネジを十分締め付けているか

e 本体のブレ、回転がないか? → ■**施工手順 1**の吊下金具押しネジ、■**施工手順 4**の本体押しネジを十分締め付けているか
■**施工手順 5**の吊下金具のミゾに取付金具のガイドピンを確実ににはめ込んでいるか
(羽根・灯具のバランスなどにより多少揺れることがあります。)

r ガタツキ音・コスレ音がないか? → ■**施工手順 1 ~ 4**、**7**の各ネジは十分締め付けているか

■リモコンで操作する

1 リモコン送信機の操作について

※あらかじめ壁スイッチをONにし、リモコン送信機を操作してください。

リモコン送信機は必ずリモコン受信部に向けて操作してください。
また、リモコン送信機を操作すると、確認音が本体よりします。

照明ボタン

全灯 → 減灯 → 消灯

の順送りが可能です。
※ONにした場合、OFFにする直前の状態で点灯します。

オフタイマーボタン

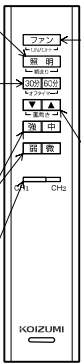
オフタイマーの設定をします。
30分：30分後に消灯及びファンの運転を停止します。
60分：60分後に消灯及びファンの運転を停止します。

スピード切替ボタン

強・中・弱・微ボタンを押すと回転スピードが切り替わります。
※壁スイッチをOFFにしても、直前の状態を記憶しています。

チャンネルスイッチ

2台の器具を個々に操作する場合に器具側のスイッチと合わせます。
※「3チャンネルの設定について」をご確認ください。



ファンボタン

運転 → 停止

の順送りが可能です。
※一旦停止し、再度運転した場合、直前の状態で回転します。

風向きボタン

回転方向が切り替わります。

▼：下向き

▲：上向き

※壁スイッチをOFFにしても、直前の状態を記憶しています。

※スイッチの切り替えは、一度スイッチを押してから2秒以上間隔をあけて行なってください。

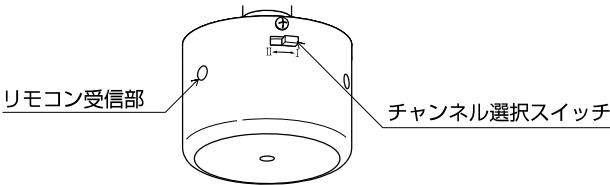
2 リモコン受信部について

＜リモコン受信部＞

リモコン送信機からの信号を受けます。
(傷つけたり、汚したりしないでください。)

＜チャンネル選択スイッチ＞

出荷時は1 に設定されています。



3 チャンネルの設定について

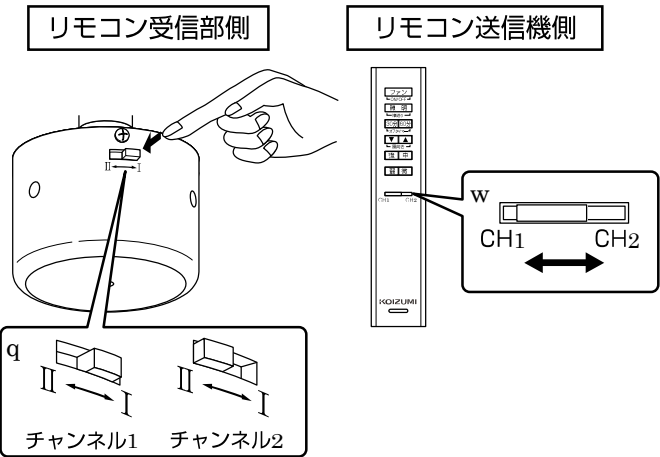
＜1台の器具のみ操作する場合＞

リモコン送信機のチャンネルスイッチを1 にしてください。

＜2台の器具を操作する場合＞

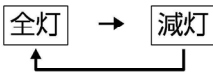
一室で2台の器具をリモコンで操作する場合には、どちらか一方のリモコン受信部側のチャンネルを1 にし、他方を2 にしてください。
リモコン送信機側のチャンネルスイッチを操作したい器具のチャンネルに合わせてください。

※当社リモコンシーリングライトを近くに取付けた場合も、リモコンのチャンネルを分けておく必要があります。



■壁スイッチで操作する（ブルース操作）※専用灯具（別売）使用時のみ

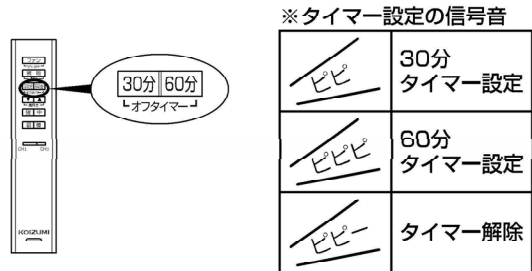
- 壁スイッチをONにすると点灯します。
 - ・壁スイッチをOFFにし、約1.5秒以内にONにすると点灯状態の切り替えができます。
 - ・壁スイッチをOFFにし、約3秒以上過ぎてからONにするとOFFにする前の状態で点灯します。
- 1つの壁スイッチで2台以上の器具をブルース操作することは避けてください。



■オフタイマーについて

リモコン送信機のオフタイマーボタンで30分後または60分後に消灯およびファンの運転を停止させることができます。

- ※オフタイマーはファンが停止している場合は、設定できません。
- ※設定後に、ファンを停止させるとタイマーが解除されます。
- ※設定後に、オフタイマーボタンを押すとタイマーが更新され、新たに30分または60分のオフタイマーが設定されます。



■回転方向の切り替えについて

リモコン送信機の風向きボタンで上向きの風、下向きの風が選択できます。「▼」にすると直接風が当たり、涼しさが増します(春夏秋)。また、「▲」にすると、部屋全体にゆっくりとした風を送り、部屋の空気をかくはんします(冬)。

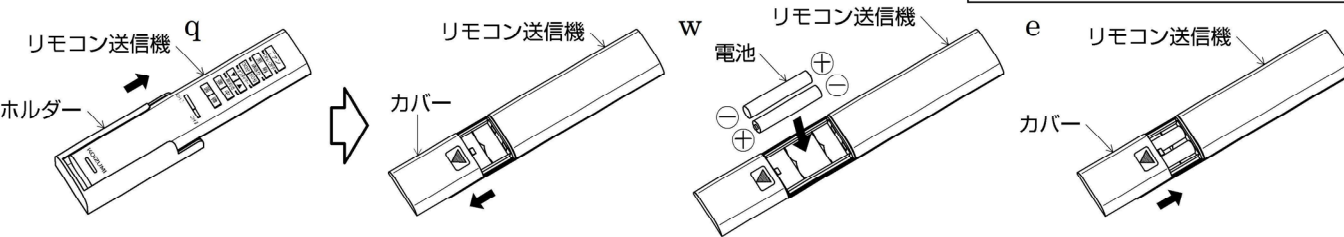


■リモコン送信機について

1 リモコン送信機をホルダーから取出す

- q リモコン送信機裏側のカバーを手前に引き、カバーを外す。
- w 電池の極性を表示に合わせて入れる。
- e カバーを取付ける。

お買い上げ時にセットされている電池はモニター用電池ですので、早く切れることがあります。あらかじめご了承ください。

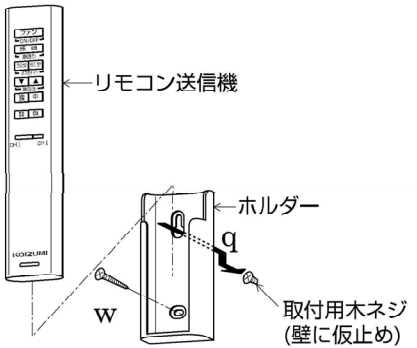


2 リモコン送信機を壁などに取付ける場合

- q 必ず付属の取付用木ネジ1本を壁に仮止めしてから、ホルダーを引っ掛ける。
- w 2本目の取付用木ネジを取付けてから仮止めの取付用木ネジをねじ込み、固定する。

※その際、強く締め込まないようにする。
ホルダーが破損するおそれがあります。

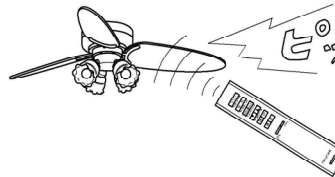
※操作する場合はホルダーから取り出し、器具に向けて行なってください。



3 リモコン送信機を操作

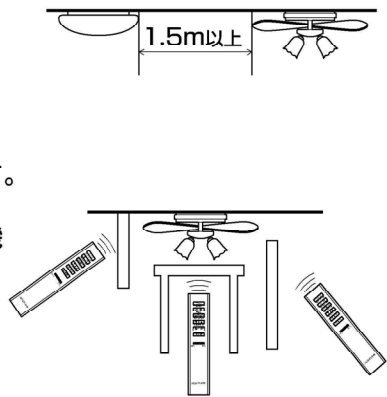
すると確認音が本体よりします。

※スイッチを操作すると、「ピッ」と1回確認音がします。確認音がしなければ、スイッチ操作は無効です。2秒以上間隔をあけて行なってください。



4 使用上のご注意

- このリモコン送信機は、コイズミ照明器具専用です。
リモコン式テレビなどには使用できません。
他社の照明器具が動作する場合がありますが故障ではありません。その際は、器具とリモコン送信機のチャンネルを切り替えてください。
- 電池の寿命は、1日10回の常温使用で約半年です。
電池は半年を目安に、必ず2本同時に交換してください。
※充電式(Ni-Cd)電池は使用できません。
- 器具によっては、反応が遅い場合がありますが故障ではありません。
- スイッチを早く押すと反応しない事がありますので、ゆっくり操作してください。
- 長時間使用しない場合は、壁スイッチをOFFにしてください。
リモコン送信機で消灯・回転停止した場合、器具側に待機電力がかかり電力を消費します。
- 壁スイッチで電源を切った場合は、リモコン送信機を操作しても器具は動作しません。
壁スイッチで電源を入れてから操作してください。
- リモコン送信機は、落としたり、水をかけたり、ふみつけたりしないでください。故障の原因になります。
- 温度の高くなるものの近くでは使用しないでください。過熱・故障の原因になります。
- 室温が低い場合は、点灯直後の再操作に時間がかかることがあります。
器具内の温度が上昇しますと正常に戻ります。
- 蛍光ランプ照明器具が取付けられた場所では、その器具から1.5m以上離して取付けてください。
誤動作の原因になります。
- リモコン送信機の発信部が汚れますと作動しにくくなります。
乾いた柔らかい布などで汚れを拭き取ってください。
- リモコン送信機の周囲にしゃへい物がある場合、作動しない場所があります。
しゃへい物をさけて再度スイッチを押してください。
- 器具をご使用になる部屋の天井・壁・床などの色が黒っぽいとリモコン送信機が作動しにくい場合があります。



■修理を依頼される前に

- 動作に異常があると思われる場合は下記の点検を行なってください。
- 羽根が回転することにより、横揺れが起きる場合がありますが故障ではありません。

現 象	考えられる原因	処 置
リモコン送信機を操作しても動作しない	リモコン送信機の電池が切れている	電池を交換する
	リモコン受信部に信号が届いていない("ピッ"と確認音がしない)	リモコン受信部が見える位置から操作する
	壁スイッチがOFFになっている	壁スイッチをONにする
	リモコン送信機を連続操作した	2秒以上間隔をあけて操作する
壁スイッチをONにしても別売照明器具のランプが点灯しない	室温が低い場合、数分間リモコン信号を受信しにくい場合があります	器具温度が上がってから操作する
	ランプが切れている	ランプを交換する
「風向き」ボタンを押しても変わらない(止まってしまう)	回転しているときにスイッチ操作をした場合、一度回転が止まってから逆方向に回転し始める	しばらく様子を見る
壁スイッチをONにしてもファンが回らない	リモコンの設定が停止状態になっている	「ファン」ボタンを押してから回転方向・スピードを操作する

現 象

本体のゆれが大きい
振動している

考えられる原因

羽根が破損している

本体押しネジの締め付けが不十分、または不均等になっている

処 置

壁スイッチをOFFにして、羽根に破損がないかを確認してください。破損している場合は、工事店・電器店、別紙サービスセンターにご相談ください。

■施工手順1～4を参照して、取り付け直してください。取り付け直しても改善しない場合は、工事店・電器店、別紙サービスセンターにご相談ください。

処置した後になお異常がある場合は、必ず電源を切り、工事店・電器店、別紙サービスセンターにご相談ください。

■長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

- 経年劣化により危害の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた以下の内容の表示を本体に行っています。

【製造年】本体に西暦4桁で表示してあります。



【設計上の標準使用期間】 15年
設計上の標準使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがあります。
※当該期間は扇風機機能について設定したものです。

(設計上の標準使用期間とは)

- 運転時間や温湿度など、標準的な使用条件に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。
- 設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また偶発的な故障を保障するものではありません。
- 標準的な使用条件 日本工業規格 JIS C9921-1による

環境条件	電圧		単相100V又は単相200V	製品の定格電圧による。
	周波数		50Hz及び/又は60Hz	
	温度		30℃	
	湿度		65%	製品の取扱説明書・据付説明書による。
	設置		標準設置	
負荷条件			定格負荷(風速)	製品の取扱説明書による。
想定時間など	扇風機 (壁掛け扇、天井旋回扇を含む。)	運転時間	8h/日	
		運転回数	5回/日	
		運転日数	110日/年	
		スイッチ操作回数	550回/年	
		首振運転の割合	100%	
	天井扇	運転時間	10h/日	
		運転回数	5回/日	
		運転日数	180日/年	
		スイッチ操作回数	900回/年	
		首振運転の割合	規定しない。	

注記 環境条件の湿度65%は、JIS Z 8703 の試験状態を参考としている。

- 「経年劣化とは」
長期間にわたる使用や放置にともない生じる劣化をいいます。

※上記の「長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示」は、電気用品安全法の改正に基づき、2009年4月以降生産の製品に記載しています。